

特定貨物自動車運送業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	1	5 ～ 6	10トンバルク車でサイロへ向かう途中、県道から60～70m下の川へ車両とともに墜落した。	221	17	10 ～ 29
1999	6	3 ～ 4	大型トレーラが停車中の2台のトラックに追突した弾みで大型トレーラに積んでいた鋼材約100本のうち約30本が路上に落ち、うち1本がトラックの運転席を破って運転者の頭部に当たった。	221	17	10 ～ 29
1999	1	1 ～ 2	トラックに荷物を積み込んで国道を走行中、交差点で赤信号のため停車中のキャリアカーに追突した。	221	17	1～ 9
1999	6	7 ～ 8	事業場内のトラックターミナルにおいて、同僚と清涼飲料水30ケース(約400kg)を積んだキャスター付台車をトラック荷台への積込んでいるときに、台車が倒れてきて激突された。	611	6	30 ～ 49
1999	8	10 ～ 11	20tトレーラーを運転して同道を走行中、トンネル内でセンターラインオーバーして対向のトラックと正面衝突した。	221	17	30 ～ 49
1999	10	5 ～ 6	大型トレーラーで走行中、中央分離帯のガードレールを突き破って高架柱にぶつかった後、対向車線の側壁に激突し、車外に投げ出された。	221	17	30 ～ 49
		14	ダンプトラックに積み込まれた表土を運搬するため、トラックの荷台の上			10

1999	11	11 ~ 15	でシート掛けを行っていて荷台から約2m下の地面に墜落した。	221	1	1 ~ 29
2000	2	15 ~ 16	石油をタンクローリー(25t)で輸送途中、アイスバーンのためスリップして回転しながら飛び出してきた対向のミキサー車の後部右側がタンクローリーの運転席付近に衝突した。	221	17	10 ~ 29
2000	10	8 ~ 9	大型平ボデートラックからコンテナパック入飼料をフォークローダーで荷降しする作業で、荷台上でパックの紐をかける作業を行っていたときに荷台から転落した。	221	1	30 ~ 49
2000	2	8 ~ 9	コンクリート製排水管を運搬するため、トラッククレーン(2.93t)で荷台に積み込み作業中に排水管が頭に激突した。	523	1	10 ~ 29
2000	3	2 ~ 3	2トントラックで新聞の配送業務が終了し国道を走行中、赤信号で止まっていた10トントラックに追突した。	221	17	50 ~ 99
2000	9	5 ~ 6	トラックで走行中、高速道を降りて国道が交わる交差点で信号待ちしていた大型ダンプに追突した。	221	17	10 ~ 29
2000	10	4 ~ 5	販売した車で国道を走行中、交差点で信号待ちしていたところ大型保冷車に追突された4トン車と前のトレーラーとの間にはさまれた。	221	17	30 ~ 49
2000	5	6 ~ 7	液化窒素積載の大型タンクローリー(最大積載量7900kg)で高速道路を走行中、左車線前方を走行していた乗用車2台に接触し、その反動で右に振られて中央分離帯を突破、さらに反対車線の追越車線を走行中の乗用車に接触後、道路脇の鉄柱に激突した。	221	17	30 ~ 49
2000	6	13 ~ 14	土木建設現場の重機に燃料を給油して帰社途中のタンクローリーが道路路肩から約8m下に転落し、助手席にいた者が潰れた車体に挟まれた。	221	17	1 ~ 9

2000	6	15 ～ 16	鉄骨の梁材をトラックの荷台に積み込むため天井クレーン(2t)の玉外しをしていたときに荷台から墜落し、続いて梁材が荷台から落下して一旦床に当たった後頭を直撃した。	521	4	1～ 9
2000	10	6 ～ 7	大型車両をホームに着けるため荷台の後部ドアを開けようとしていたときに、構内に入ってきた4t車が後を通り抜けようとして接近しすぎたため、自車と4t車との間に挟まれた。	221	7	50 ～ 99
2000	9	6 ～ 7	11tトラックで車両系建設機械を搬送するため、建設用機械に乗り込んだときに誤って旋回レバーを引っかけたため建設機械が旋回し、開いていたドアと機体との間に体を挟まれた。	149	7	1～ 9
2000	6	3 ～ 4	10tトラック(保冷車)で市道を走行中、コンクリート製の法面に正面から激突した。	221	17	10 ～ 29
2000	10	3 ～ 4	冷凍車(4t)で国道を走行中、カーブで13t車と正面衝突した。	221	17	30 ～ 49
2000	7	13 ～ 14	セメントサイロ基地へ向かうためセメントローリーで県道を走行中、中央線を越えて反対側の山腹に接触し、その後、民家の倉庫に激突した。	221	17	1～ 9
2001	1	7 ～ 8	大型タンクトレーラーで走行中、橋のアルミ欄干を突き破り約6.5m下の川に転落した。	221	17	50 ～ 99
2001	2	5 ～ 6	大型トラックに荷を積み自動車道を走行中、前方を走行していたタンクローリーに追突し、その反動でセンターライン側壁に接触した。	221	17	10 ～ 29
2001	3	15 ～ 16	営業所構内において、大型トレーラーから重機を降ろしていたところ、重機がバランスを崩したので運転席から地面へ飛び降りたが、倒れてきた重機の運転席部分と近くに横積みしてあった電柱との間に胸部を挟まれた。	142	1	30 ～ 49

2001	3	16 ～ 17	トラックで国道を走行中、反対車線にはみ出し対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	10 ～ 29
2001	3	10 ～ 11	一時仮置した砂をドラグショベルでダンプカーへ積み込むため、搬入道の上から掘削していたときに、約3m下へドラグショベルとともに転落し下敷になったもの。	142	1	30 ～ 49
2001	4	4 ～ 5	国道上で車両運搬用トレーラーから車の荷卸し作業を行っていて、新聞配達の前付自転車にはねられた。	231	17	1～ 9
2001	7	13 ～ 14	山間の道路拡幅工事現場へ生コンを搬送するため、県道と私道との段差を利用して11tミキサー車から4tミキサー車へ生コンの積み替え作業を行い、4tミキサー車が県道へ出ようと左折したが曲がり切れずに切り返しのため後進中、私道の路肩より12m下の地面に転落し約1m下の車外に放り出された。	229	1	10 ～ 29
2001	3	10 ～ 11	作業現場にコンクリートを運搬し、待ち時間を利用して車両の洗車を行うため車両ホッパー部のステップ(高さ約3m)に登って洗車を行っているときに足を滑らせ地面に落下した。	221	1	1～ 9
2001	10	2 ～ 3	国道を大型トレーラーで走行中、道を塞いで停車していた他のトレーラーに運転席正面から激突した。	221	17	10 ～ 29
2001	10	10 ～ 11	バラセメント運搬用タンクローリーのタンク上部で粉末セメントの積み込み作業中に、タンクローリーのタンク上部から地面に墜落した。	221	1	1～ 9
2001	11	13 ～ 14	同僚がタンクローリーの積載物を降ろすため所定の位置に停車しようとしたところ、そこに別のローリーが停車していたので自分で移動させ、その後作業が終わってもローリーが先程のままであったので不審に思い開いていたローリーのハッチから中を見たところローリーの運転手が倒れていた。	221	90	30 ～ 49

2001	12	12 ～ 13	セメント工場から大型セメント運搬車(12.5t)にセメントを積んで走行中、中央分離帯を乗り越えて乗用車が飛び出してきたため正面衝突し、さらに道路脇にある用水路用の水門の柱(高さ4m)に衝突した。	231	17	～ 29	10
2001	8	～ 13	トラックでスーパーに品物を配達して走行中、車輛の前部左側を縁石に衝突して反対車線に飛び出し、対向の10tダンプトラックと正面衝突した。	221	17	～ 29	10
2002	1	～ 7	重油(約1000?)をタンクローリー(最大運搬量14kl)に積んで国道を走行中、長い下り坂の路面が凍結していたためスリップし、陸橋から柵を突き破って約7m下の草地に転落した。	221	17	～ 29	10
2002	6	～ 19	リサイクルセンターでコンクリートの荷降し後、ミキサー車の外れていた雨カバーを修理しようとして高さ約3.4mのステップから墜落した。	221	1	1～ 9	10
2002	2	～ 18	セメント粉体を入れたフレコンをダンプトラックに積み込むため、トラックター・ショベルにフレコン2袋を吊り下げて後進したところ、電話機(子機)で話しながら通行していた者を跳ねた。	141	6	1～ 9	10
2002	7	～ 16	牛乳工場の商品搬送用プラットホームにトラック(3.9t)をバックで付け運転席から降りようとしたときに、トラックが下がったためトラックとプラットホームとの間に誘導者が腹部を挟まれた。	221	7	～ 49	30
2002	9	～ 8	フェリーで運ばれたドラグショベル2台をトレーラーに積み終えた後に姿がみえなくなったので、別業者のトレーラー運転手が警察署に通報し捜したところ、港の水深約8mの海底で発見された。	142	10	～ 29	10
2003	1	～ 11	貴重品運搬警備業務で請負先に向うため国道を乗用車で走行中、下りカーブにおいて対向車線に入って走行してきたダンプ・トラックと衝突した。	231	17	～ 299	100
2003	2	～ 6	トラックで荷下ろし業務を終え、センターへもどる途中で交差点に差し掛かったときに、反対車線を走行していたトレーラーが中央分離帯を乗り越えて門型道路標識に接触したため、標識が折れて本線上に落下し運転席を	221	17	～ 29	10

			直撃した。			
2003	2	6 ～ 7	石膏ボードをトレーラーに積込んで到着し、石膏ボードを搬出するため、片側のウイングとアオリを開けた途端、石膏ボード約120枚（6kg）が落下し下敷きになった。	611	4	1～ 9
2003	3	4 ～ 5	ダムの付替道路のトンネル工事において、現場にコンクリートを搬入してきたコンクリートミキサー車が工事用の取付け道路で横転し、車両の下敷きになった。	221	2	1～ 9
2003	4	5 ～ 6	トラックで自動車道を走行中、走行車線をはみ出して車線左隣のバス停の車線内に進入し、停車中のトレーラーに追突した。	221	17	10 ～ 29
2003	4	10 ～ 11	パック牛乳を入れる空ケース（1パレット上に60個、2段）を、2パレットずつフォークリフトで洗浄室へ運ぶ作業において、1度に2段積みのまま運搬しようとしたところ、上段パレット上のケースが崩れそうになったので運転席から身を乗り出して直していたときに、足を滑らせて操作レバーに触れたためマストが倒れ、運転席との間に頭部をはさまれた。	222	7	50 ～ 99
2003	5	5 ～ 6	トラックに清涼飲料を積んで時速50キロメートルで走行中、坂道で対向車線にはみ出して、前から来た大型ダンプと正面衝突した。	221	17	10 ～ 29
2003	6	18 ～ 19	トレーラーで鉄屑等を運送するため、鉄屑加工場に入場していたときにトレーラー横を移動中の重機（リフティングマグネット付）が地面に敷いていた鉄板（6m×1.5m、重さ約1.5t）をはね上げたため、それに当たった。	149	4	30 ～ 49
2003	6	8 ～ 9	荷物をトラックに積んで自動車道を走行中、事故による渋滞のため停まっていた大型トラックに追突した。	221	17	30 ～ 49
2003	8	6 ～ 7	冷蔵・冷凍セミトレーラー車（後車部分）を引き取るため、トレーラー車のヘッド（牽引車部分）を運転して国道を走行中、運転席の下付近に取り付けてあるスペアタイヤが突然脱落して後輪がこれに乗り上げたため車が	221	17	1～ 9

			バランスを崩し、対向車線を越えて水田に転落した。			
2003	10	9 ～ 10	配送のため2t保冷車で国道を走行中、感知式信号機のある交差点に進入したときに、県道から進入してきたタクシーの運転席側の側面に衝突し、助手席に乗車していた者が車外に投げ出されて死亡した。	231	17	10 ～ 29
2003	11	8 ～ 9	トラックで荷卸して走行中、過重労働による心筋梗塞を発症し、蛇行運転になり横から追い越してきた路線バスの後方に追突した。	911	90	10 ～ 29
2003	12	2 ～ 3	バイクで左車線を走行中、交差点で青信号であったので直進しようとしたときに、対向車の大型トラックが右折したので右に避けたが避けきれずに大型トラックの左側後部に衝突した。	221	17	100 ～ 299
2004	11	2 ～ 3	単独事故を発生させたトラッククレーンをレッカー移動するため、同僚が行っていたジャッキの位置決め作業を近くで見っていたところ、傾いていた同クレーンの荷台のあおりが突然開き、あおり部に溜まっていた積荷のガードレール資材が被災者に落下・激突した。	221	4	1～ 9
2004	3	5 ～ 6	トラックで高速道路を運転し、サービスエリアに入ろうと入口から2車線ある進入路右車線を進行中、駐停禁止の進入路右側に仮眠のため停車中のトレーラー（ハザードランプ点灯ナシ）の左後部に追突し、運転席に挟まれた。	221	17	30 ～ 49
2004	2	4 ～ 5	タンクローリーで国道を走行中にセンターラインを超え、対向車線の大型トラックに激突した。	221	17	50 ～ 99
2004	4	0 ～ 1	タンクローリーで国道を走行中、対向車線より7tトラックが中央分離帯を飛び越え、被災者の運転するタンクローリーに衝突した。	221	17	100 ～ 299
2004	3	9 ～ 10	4tダンプトラックで国道を走行中、対向車線で追突事故を起こし、車線を越えてきた大型貨物自動車と正面衝突した。	221	17	1～ 9

2004	6	17 ～ 18	中古の業務用乾燥機（約1 t）を、2.5 tのフォークリフトでトラックの荷台から移動させようとした。しかし安定が悪かったため、いったん地面に降ろし、近くで4.5 tのフォークリフトを使用していた他の作業者に、別方向から乾燥機を持ち上げ移動するよう指示した。他の作業者がフォークリフトで乾燥機を持ち上げようと地切したところ、乾燥機が倒れ、近くにいた被災者が乾燥機とトラックの間に挟まれた。	222	5	1～ 9
2004	6	4 ～ 5	普通貨物自動車で荷物を配送中、交差点において、赤信号で停車中の大型10 tトラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2004	9	15 ～ 16	11 tトラックにて走行中、前方で赤信号のため停車していた10 t ダンプカーに追突した。	221	17	10 ～ 29
2004	4	9 ～ 10	タンクローリーを運転中、右折しようとしたトラックと接触し、タンクローリーが横転した。	221	17	10 ～ 29
2004	7	6 ～ 7	フェリーの車両デッキ内において、下船のため、トレーラーを前進させようとした際、後部台車のブレーキを解除していなかったことに気づき、トレーラーを下車して、後部台車のブレーキを解除したところ、トレーラーが動き出した。このため、被災者はトレーラーを止めようと運転席に行ったところ、ドアがフェリーの鋼製柱にぶつかり、しまったドアに挟まれた。	221	7	30 ～ 49
2005	1	5 ～ 6	被災者が詰所内で強盗に遭遇し、殺された。	911	90	1～ 9
2005	12	11 ～ 12	斜面（勾配4度）に停めてあったタンクローリーが突然動き出したため、タンクローリーを止めようとしたが、誤ってタンクローリーのバンパーと積み重なった岩石に雪が積もったものとの間に挟まれた。	221	7	1～ 9
		14				10

2005	1	～ 15	タンク（高さ3.6m）の上部に設置されているハッチを閉めていたところ、誤って足を滑らし、地上に墜落した。	221	1	～ 29
2005	4	～ 9	8 高速自動車道を走行中、車線前方に割り込んで来た車両を回避しようと急ハンドルを切ったところ、左側壁に接触し、反動で右側壁に衝突、車外へ放り出された。	221	17	～ 299
2005	7	～ 23	22 トラックで高速自動車道を走行中、前方で事故が発生し、前を走行していた大型トラックが急停車したところに追突した。	221	17	1～ 9
2005	12	～ 7	6 河川敷道路においてトラックにドラグ・ショベルを後進させながら積込み作業中、クローラが荷台から外れ、5m下の川に転落し、被災者がドラグ・ショベルの下敷きとなった。	142	1	1～ 9
2005	9	～ 12	11 工場横にコンクリートミキサー車を停車させるため、被災者が運転席側のドアを開けて後方を確認しながらバックさせていたところ、車両のドアと工場の壁が激突、そのはずみで運転席から投げ出され、壁と車両のドアとの間に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2006	1	～ 5	4 被災者は4 tトラック（冷蔵冷凍車）で製品を配送し、事業場へ戻るため高速道路の走行車線を走行していたところ、S字カーブの下り坂でガードレールに接触し、片輪が高さ1 mのコンクリート側壁に乗り走行車線をふさぐ形で運転席を下に横転し、後から来た10 tトラックに激突され死亡した。	221	17	50 ～ 99
2006	1	～ 14	13 被災者は、トレーラーに荷を積み込んだ後、車輛整備のためにエアサスペンションで車体とタイヤの間に隙間をつくり、上半身を入れてブレーキ等の調整作業をしていたが、エアサスペンションが突然破裂をした為、上げていた車体下がってしまい、タイヤとの間ではさまれ被災した。	221	7	100 ～ 299
2006	3	～	6 乳牛の搬送のため、酪農家牛舎前に搬送用トラック（車両後部にモーター駆動ワイヤ開閉形式のパワーゲートが装備されている）を横付けし、他の作業者が10 tトラック側面にあるスイッチを入れパワーゲートを開ける	221	6	1～ 9

		7	操作を行ったところ、約20°開いた時点で開閉用ワイヤロープが切断したため、ゲート後方で待機していた被災者にゲート本体が直撃した。			
2006	2	7 ~ 8	工場内のヤードにおいて、タンクローリーにてフッ酸（フッ化水素の55%水溶液）を運搬し、搬入（補給）しようとしたタンクローリー運転手の被災者が補給用のバルブを操作しようとした際に別のフッ酸の配管（ポリフッ化ビニデン製）に足をかけてしまい、その負荷で希フッ酸の配管に亀裂が入り、フッ酸が配管から噴出し、被災者に振りかかった。	514	12	30 ~ 49
2006	6	13 ~ 14	片側2車線道路の右車線走行中、前方の交差点を左折するために左車線に車線変更したとき、その前方に信号待ちで停車中の列後部の大型トラックの後部に激突した。	221	17	10 ~ 29
2006	12	16 ~ 17	被災者は運送業務を終了し、作業日報を記載するために通勤で使用していたステーションワゴン車を運転し、所属事業場に向かっていたところ、道路中央線を越えて対向車側のトンネル入口壁に激突した。	231	17	1~ 9
2007	5	5 ~ 6	被災者は、タンクローリーを用いて所属事業場から、配送先に液化石油ガス（9180kg）を運搬するために出発し、自動車道の料金所に向かうインターチェンジ合流路左カーブでカーブを曲がりきれず、タンクローリーが横転した。	221	17	30 ~ 49
2007	2	10 ~ 11	営業所に出勤後、臨時便運行のため郵便局へ行き、構内の発着場で車両の荷室内に郵便物を入れるための空パレットを積み込む作業を行っていた。しばらくして、気分が悪くなった（胸が苦しい等）ため、営業所にその旨連絡を入れ、車の運転席で休んでいた。他の社員が運転席の様子を見に行ったところ、さらに苦しんでいたため、病院へ搬送したが死亡した。発症前3か月間に過重労働があった。	921	90	100 ~ 299
2007	1	15 ~ 16	配送の業務に出かけたが、15時30分ごろ被災者より現場責任者の携帯電話に、気分が悪いので車の中で休憩させて欲しいとの連絡があった。その後、帰社しないので、被災者の配送区域内で探したところ中央環状線沿いでハザードランプをつけて、シートを倒してぐったりしている被災者を発見した。病院に搬送したが死亡した。	921	90	10 ~ 29

2007	8	20 ～ 21	電動でシャッターを開けようとしたところ、手でシャッターを上下させるチェーンがシャッターに巻き込まれて絡まった。そのため、架台（うま）を単独で使用し、シャッターに絡まったチェーンを外そうとし、チェーンを引っ張っていた。そのとき勢いよくチェーンが外れて、その弾みで架台（うま）から仰向けに転落した。	371	1	1～ 9
2007	2	9 ～ 10	車両積載形移動式クレーンを操作してつり荷（「スクリーン」と呼ばれる金属製の用具で、土砂の篩い分けに用いられるもの）を移動中に、車両積載形移動式クレーンが転倒し、被災者が車両の下敷きとなった。	212	2	1～ 9
2007	8	9 ～ 10	4 t 冷蔵車を運転し荷物の配送を終え配送センターに帰る途中、踏切（警報機、遮断機あり）内に進入したが道幅が狭く、対向車をかわすことができず踏切内で立ち往生し、電車に衝突された。	221	17	10 ～ 29
2008	6	8 ～ 9	ヒューム管（約1.5t、長さ4m、径600mm）を小型移動式クレーンの荷台中央にフォークリフトで積み込んだ後、人力で荷台奥側（進行方向右側）に回転させながら移動したところ、荷台が傾きヒューム管が落下しそうになった。被災者はこのヒューム管が落下する前に荷台から地上に降りたところ、ヒューム管と地面の間にはさまれた。	611	4	1～ 9
2008	10	14 ～ 15	被災者は、13.8t積みトラックでアカマツの丸太材95本を運搬する作業に従事していた、配送先の手前、約150m路上に停車したトラックの脇で丸太材（直径31cm、長さ約4m、重量120kg）の下敷きになって死亡しているのを発見された。	522	4	1～ 9
2008	4	11 ～ 12	現場より回収したセメントサイロを移動式クレーンで寝かせて下ろした。その後、サイロを立てたところ、当該サイロに付設してあるタラップを昇降させるための折りたたみ式タラップカバー（周囲にネットが張ってある）が正常に作動しなかった。被災者がこれを直すためにネット越しにタラップを登って作業を行った後、タラップを降りている時にバランスを崩して約4m（足の位置）の位置から墜落した。	612	1	10 ～ 29
			貨物自動車（セルフローダー）からタイヤローラーを降ろす作業において、タイヤローラーを降ろした後、タイヤローラーを緊結していたワイヤ			

2008	2	23 ～ 24	ロープをウインチで巻いたところ、巻きすぎたためワイヤロープが切断した。その際、切断したワイヤロープの端が油圧装置に動力を供給するシャフトに巻き込まれたため、被災者が貨物自動車の下部に入り、巻き込まれたワイヤロープを外そうとしたところ、動力シャフトに巻き込まれて死亡した。	121	7	1～ 9
2008	12	8 ～ 9	スラグ材（リサイクル材）が入ったホッパー（投入口：縦・横3m、深さ約3.5m）下部の材料出口部分にスラグ材が詰まったため、スラグ材の上から鋼管を突き刺して下に押し出す作業をしていた。その時、突然、足元のスラグ材が崩れて被災者がスラグ材に埋没した。	418	1	10 ～ 29
2009	2	9 ～ 10	天井クレーンを使用し、トラックの荷台へコイル8束（約6.4t）を積込中、L形フックを外したところ、まもなくコイルが崩壊し、コイルとスタンション（支持柱）の間にはさまれた。	611	5	10 ～ 29
2009	2	13 ～ 14	被災者は、納品のため、トラックに荷物を乗せて運転し、納品先の工場構内にトラックを停めて荷台から荷を降ろす作業の準備をしている時、トラックの荷台後部から地面に転落した。	221	1	1～ 9
2009	4	8 ～ 9	事業場構内において、被災者の運転する貨物自動車に荷を積み込むために荷台後部の観音扉を開けたところ、前方から走行してきた協力業者の貨物自動車に当該観音扉が接触し、その反動で転倒、身体を強打した。	221	6	50 ～ 99
2009	5	16 ～ 17	コンクリートミキサー車の運転を担当する被災者が、同車洗浄作業場所において、同車の左後輪を中腰で水洗いしていた。その後、あおむけになり地表面に倒れているところを発見された。	999	99	10 ～ 29
2009	8	17 ～ 18	被災者は災害発生日の3日前に入社し、研修として2tトラックで1日80軒程度の自宅への配達補助業務を行っていた。被災日の朝は異常はなく、いつもどおり勤務していたが、午後から配送中に気分が悪くなり、路上でうずくまったため、同行していた運転手がスポーツドリンクを与え、応急処置を施すとともに救急車を要請し、病院へ搬送された。しばらく意識不明の状態が続いたが、後日死亡が確認された。	715	11	30 ～ 49

2009	1	5 ～ 6	営業所から製油所にLPガスを詰めに行くため、8tの大型タンクローリーで営業所を出発、約40km/hの速度で現場の片側一車線カーブの下り坂にさしかかった時、路面が凍結していたため、タイヤがスリップして反対車線にはみ出し、先にスリップによる単独事故を起こし対向車線上に停車中であった乗用車に衝突した後、歩道のガードパイプを突き破って3m下の道路脇の河川敷に転落した。	221	17	1～ 9
2010	1	22 ～ 23	被災者は、缶ジュースを積んだ普通トラック（3.5t）を運転して、コンビニへ配達中、国道の片側2車線箇所の追い越し車線側を走行していたところ、運転操作ミスにより、隣車線の車を追い抜いた直後に車体が左右にふらつき始め、交差点付近の中央分離帯に衝突して車体が横転したものの。被災者は、全身を強く打ち、病院に搬送されるも約5時間後に出血性ショックのため死亡した。	221	17	30 ～ 49
2010	7	2 ～ 3	国道を4tトラックで運転中、交差点にトラック2台（10t車と4t車）が信号待ちで止まっていた。しかし、被災者は過労による居眠りで赤信号に気付かず、停車している4tトラックに追突した。さらに4tトラックはその前のトラック（10t）に追突した。	221	17	10 ～ 29
2011	6	6 ～ 7	被災者は午前3時40分頃に土曜日取引先で荷積み（電炉灰）を終えていた大型トレーラーに乗車し、町内にある事業場から納入先である精錬所に向け出庫した。出庫後、休憩を経て運転を再開し、午前6時35分頃に発生現場に差し掛かった際に、対向車と衝突したもので、その際に頭部を強打し死亡したものの。	221	17	10 ～ 29
2011	3	17 ～ 18	被災者は飼料運搬車（タンク車）で飼料を配送する者であるが、配送先にある高さ5.5メートルのサイロ下の地面でうつ伏せに倒れているところを発見された。	418	1	10 ～ 29
2011	5	8 ～ 9	被災者が、当日の作業（屋外での配送用コンテナの片付け）が終了し、着替え等を行うため建物内に戻ろうと5段の階段を上っていたところ転倒し、仰向けのまま地面に後頭部を打ち付け、脳挫傷により死亡したものの。	413	1	10 ～ 29
			国道において、ダンプ運転者Aが運転するダンプが緩やかな左カーブを北進			

2011	5	8 ～ 9	中、スリップして対向車線にはみ出し、南進中のダンプ運転者Bが運転するダンプと正面衝突、運転者Aは肋骨を2本骨折、運転者Bは外傷性肝破裂で間もなく死亡したもの。現場は片側一車線の緩やかな左カーブ。事故当時は激しい雨が降っていた。	221	17	10 ～ 29
2011	4	3 ～ 4	走行中、被災者が運転する2トントラックがセンターラインをはみ出し、対向車線から走行してきたユニック車に激突し、横転したもの。救急車により搬送中に死亡したもの。	221	17	10 ～ 29
2011	2	13 ～ 14	サトウキビを集荷・運搬するため、積載型トラッククレーンの荷台にサトウキビを積み込んだ後、当該トラッククレーンのアウトリガーを被災者が収納したところ、下り坂であったため、当該トラッククレーンが動き出し、畑と道路の段差で横転したため、被災者が下敷となり死亡した。	221	6	1～ 9
2012	6	4 ～ 5	大型トレーラーで国道を走行中、運転していたトレーラーが中央分離帯のフェンスを突き破って反対車線の土手に衝突横転し、その際に、腹などを強く打ち死亡した。なお、トレーラーには、最大積載量を超える化学物質が積載されていた。	221	17	1～ 9
2012	2	3 ～ 4	被災者は赤土採取場へ向かうため県道を走行中、運転操作を誤り沿道にあるコンビニエンスストアの看板柱に激突し、大動脈破裂による出血性ショックにより死亡した。	221	17	10 ～ 29
2014	3	4 ～ 5	国道にキャリアカーを止め、車体後部で車両を下ろす準備を行っていたところ、軽自動車に追突され、キャリアカーとの間にはさまれた。	231	17	10 ～ 29
2015	8	10 ～ 11	平成27年8月5日、8時15分から社長と被災者の2名で解体作業を行った。10時頃、被災者に休憩を取るよう指示後、社長はトラックを運転し当該事業場の置き場に行った。10時15分頃、社長が現場に戻ると、被災者は駐車場の境界のフェンスに寄り掛かり、意識が朦朧としていたので、救急車で医療センターに搬送したところ熱中症と診断された。入院中の平成27年9月14日に容体が急変し死亡。	715	11	1～ 9
		13	大型タンクローリーでレギュラーガソリン等を運搬中、高速道路インター			50

2015	10	～	チェンジの料金所から、下り本線に合流する緩やかな上り坂の左カーブを	221	17	～
		14	曲がりきれず、右側のガードレールに衝突して横転した。			99
2016	6	～	新聞印刷工場から新聞販売店へ当日の朝刊を輸送するため、3 tトラック	221	17	1～
		0	で、片側2車線の走行車線を走行中、IC付近において、車体を追越車線			9
		1	右側、中央分離帯のガードケーブルに接触させ、その後、走行車線左側の			
			ガードケーブルを突き破って道路脇の法面に転落した。トラック運転手は			
			出血性ショックにより死亡した。			
2017	12	～	トラックに積載されたクレーンの部品（継ぎジブ）の荷下ろしを行う際、	612	4	300
		8	同僚が玉掛けのため当該ジブによじ登ろうとした時、バランスが崩れジブ			～
		9	がトラック荷台より転げ落ち、トラック横で関連装備の収納作業を行って			
			いた被災者が下敷きになった。			
2017	12	～	被災者は、事業場敷地内にある点検車庫内において、タイヤチェンジャー	169	7	10
		10	（ホイールとタイヤゴムとを脱着するための機械）を用いて、トラックの			～
		11	タイヤを冬用のものに交換する作業を行っていた。同僚が、交換していた			29
			タイヤとタイヤチェンジャーのフレームの間に上半身を巻き込まれている			
			状態の被災者を発見した。			
2017	11	～	被災者は、20 t ダンプトラックに積載した砂利を現場に運搬するため走	231	17	1～
		20	行中、交差点にさしかかった時、対向車線から右折してきた普通乗用車と			9
		21	衝突した。			
2017	5	～	足場仮設材の引取りに、移動式クレーン（トラッククレーン）で現場に入	212	1	10
		16	場した被災者が、トラッククレーンに荷の積み込みを終えたあと、積み込			～
		17	まれた荷の上（地上より高さ2 m 6 5 c m）で作業を行っていたところ、			29
			荷の上から地上面へ墜落した。			
2017	3	～	工事現場で使用した外部足場機材を搬入してきた貨物自動車から、フォー	222	2	10
		16	クリフトを運転し荷卸しし、所定の保管場所に運搬する途中の同僚作業員			～
		17	の後方を、被災者は荷を積載していないフォークリフトを運転し追走して			29
			いたが、その途中、被災者はフォークリフトを右旋回させたところ、当該			

			フォークリフトが進行方向左側に横転し、被災者は投げ出され、路面とフォークリフトのヘッドガードのフレーム部分に頸部を挟まれ死亡した。			
2018	12	4 ～ 5	パレットに載せた段ボール製品をトラック荷台に積み込み、パレット積み の段ボールが搬送中に相互にぶつかって傷まないように、緩衝用として段 ボールをかましていたところ、荷台の端から足を滑らせ墜落した。	221	1	10 ～ 29
2018	11	14 ～ 15	被災者はL Pガス補充のため、バルクローリー車をタンク前の所定の位置 に停車させ、充填作業の準備作業を行っていたところ、誤ってローディン グアームと呼ばれる連結管を接続することなくL Pガス充填口のバルブを 開けたため、バルクローリー車のタンクに残っていた-42℃のプロパン ガスが噴出して体に浴び、凍傷を負ったもの。	221	11	30 ～ 49
2018	8	16 ～ 17	被災者は、工事現場での作業を終え、ダンプを運転し事業場へ帰社中、片 側二車線の右側車線を走行していたところ、前方を走行するトラックに追 突し、反対車線へ飛び出し、街路樹、倉庫に衝突し、被災したもの。な お、追突されたトラックの運転手は、頸椎を痛め休業中。	221	17	10 ～ 29
2018	8	6 ～ 7	ダンプトラックで土砂を運搬中、休憩のためパーキングエリアに入ろうと したところ、他のトラックに追突した。病院に搬送されたが、後日死亡し た。	911	90	1～ 9
2018	5	12 ～ 13	タンクローリーの運転者である被災者は、会社敷地内で同社が製造したア スファルトをタンクローリーに充填する作業を行っていたところ、突然タ ンクローリー内部のアスファルトが充填口から噴出した。被災者はアス ファルトを全身に浴び、火傷を負い、救急車で救急センターに搬送され手 術を行ったが死亡した。	519	11	10 ～ 29
2019	12	14 ～ 16	資材プラントの焼土施設の一部である砂利を振るい分ける機械（振分機 械）に砂利を投入するベルトコンベアーが不調であったので、その修理の ために高さ2メートル以上の作業床及びその周囲において、ベルトコンベ アーのモーターを取り外そうと、モーターの取付部及びその周辺の部品を 分解する作業を行っていたところ、地上まで墜落した。	391	1	10 ～ 29
			被災者は、荷降ろしのためトラックの荷台に乗り、荷が積まれたカゴ台車			

2019	7	14 ～ 16	をつかんで後ずさりしながら荷台の後方に移動した後、カゴ台車の端を掴んだまま、後方で停車させていたフォークリフトの爪の上に乗り移ったところ、カゴ台車が倒れ、カゴ台車の上部とフォークリフトのバックレストとの間に頭部から頸部を挟まれたもの。心肺停止で救急搬送され、心拍を一旦取り戻すも、3日後に死亡したもの。	611	7	10 ～ 29
2019	3	14 ～ 16	被災者は、一段目に3本、二段目に2本の俵積み状態で積んだ鋼管（2.132t／本）5本を工場から配送先へ25tトレーラーで運搬する作業を行っていた。荷受け側が行う荷下ろし作業のため、固縛していたワイヤーロープをゆるめ取り外したところ、荷崩れが起こり、二段目の鋼管2本が荷台から落下し、被災者は下敷きとなり、死亡したもの。	521	4	50 ～ 99
2020	8	16 ～ 18	現場は片側一車線の直線道路。事故当時、家畜運搬車（以下A）は国道を下り方向に走行していたところ、対向車線を走行していたトレーラー（以下B）が迫っている中でAの前方を走行していた乗用車を追い越したことで、対向車線のBが右にハンドルを切り下り車線にはみ出したところ、Aも本来の走行車線（下り車線）上に戻ったため衝突し、Aの助手席にいた被災者が出血性ショックのため死亡したもの。	221	17	10 ～ 29
2020	7	12 ～ 14	高速道路の出口付近において、被災者運転のタンクローリーがトラックに追突した。なお、被災者は頭蓋骨骨折で死亡し、追突されたトラック運転手は頭部に軽傷を負ったもの。	221	17	50 ～ 99
2020	5	12 ～ 14	本社において、商品車の走行距離およびインパネのランプ点灯状態を撮影しようとした同僚がエンジンキーを回したところ、ギアが1速に入っており、車の前に駐車していた別の商品車後部の下部にスペアタイヤの装着作業をしていた被災者に追突したもの。	231	7	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。